



2023年11月14日

日 本 銀 行

パイロット実験が始まって

(中央銀行デジタル通貨に関する連絡協議会 (第6回) における開会挨拶)

日本銀行理事 清水 誠一

本日は、中央銀行デジタル通貨（CBDC）に関する連絡協議会にご参加頂き、誠にありがとうございます。

私は、本年3月よりデジタル通貨を担当しており、今回、初めて参加させて頂きます。皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、前回の連絡協議会でご説明したとおり、日本銀行は、2年間の概念実証（Proof of Concept）を経て、本年4月から、CBDCのパイロット実験を開始しました。パイロット実験は、2本の柱からなっています。柱の1つは日本銀行における技術的な実現可能性の検証で、もう1つが「CBDCフォーラム」です。これらの2本の柱は密接不可分であり、両者の検討成果を、それぞれの作業にフィードバックすることを想定しています。

日本銀行における技術的な実現可能性の検証については、現在、実験用システムの構築に向けた準備を進めています。概念実証では、中央の基幹システムを中心に検証しましたが、パイロット実験では、中央システムからエンドポイントデバイスまでを含む「エンドツーエンド」の検証を行う方針です。

「CBDCフォーラム」は、技術・運用の両面にわたって、民間事業者の皆様が技術や知見を活用させて頂きながらともに検討を行い、社会的に実装することになった場合の設計に活かしていくための場です。全部で60社の、リテール決済やそれに関わる技術に携わっておられる事業者から、実務を担う方々にご参加頂くこととなりました。多様なバックグラウンドを有する方々からご参加頂いたことを大変嬉しく思っています。すでに、本年7月に第1回目の全体会合を行ったほか、各ワーキング・グループにおけるテーマ毎の議論も始まっています。

2021年3月以来、この協議会では、概念実証の内容や進捗状況等について、民間事業者の方々や政府に情報を共有するとともに、今後の進め方について

協議させて頂いておりました。パイロット実験についても引き続き、しっかりと情報を共有させて頂くとともに、その進め方について決済の主要な担い手である皆様のご経験とご知見を拝借させて頂ければ幸いです。

最近、海外の中央銀行などの方とお話ししておりますと、CBDCについて、それ単独で議論するだけではなく、民間においてステーブルコインやトークン化された銀行預金といった「新たな形態のマネー」が登場しつつあることを踏まえ、そうした「新たな形態のマネー」の存在する決済システムの将来像の中で、中央銀行マネーがどのような役割を果たすべきか、という視点から議論する傾向がこれまで以上に強まっていると感じます。これまで、この連絡協議会で「水平的共存」と「垂直的共存」の考え方を整理して頂きましたが、最近の中央銀行間の議論は、連絡協議会で整理した考え方が1つの具体性を持つ形で展開されているものと言えます。

先日、欧州中央銀行は、デジタルユーロの「準備フェーズ」を開始することを決定しました。わが国でもパイロット実験が始まり、皆様とともに進めてきたCBDCと決済システムの将来像を巡る議論も新しい段階に入りましたが、皆様のご経験とご知見を拝借しながら、社会とユーザーに受け入れられるCBDCと決済システムの将来像を考えていきたいと思っております。どうぞよろしく、お付き合い下さい。

ご清聴ありがとうございました。

以 上